

STOP! 精神医療センター富谷移転、
2・23 みやぎユーザーズアクション

“声なき声と共に”

Action News

アクションニュース

vol.016

2023.7.7

【毎週金曜日発行】

stop.iten223@gmail.com



無謀な再編計画に異議
白紙撤回を求めます

四病院再編についての緊急討論会

富谷市移転は認められない！緊急討論会には105名が参加！...P2

Nothing about us without us!

私たち抜きに私たちのことを決めるな！



facebook

富谷市移転は認められない！ 緊急討論会には105名が参加！



問題提起する岩館氏

地域包括ケアが壊れるのが もっとも大きな問題

7月1日(土)村井知事が進める4病院再編構想に反対する患者や医師ら105名が集い「緊急討論 私たちのことは、私たち抜きに決めないで！」が宮城野区文化センターで開催されました。

まず問題提起として岩館敏晴氏(宮城県精神科病院協会会長)が発言し、県が4月に示した県外の医療コンサルタント会社の報告書を「宮城県の地域特性を分析していない」と批判。先に開かれた審議会で県から提示された資料を読み込んだ結果でも、「富谷市移転で県の財政負担はさらに増すという矛盾がある」ことを指摘しました。

また、原敬造氏(宮城県精神神経科診療所協会顧問)は「長年かけて築いてきた地域の包括ケアを自ら捨てることになる。現状最も問題なのはその点」「県は精神の患者の身体合併症の問題を労災病院との合築で解消すると言っているが、医療現場の現実から鑑みて実現性に乏しい」

と指摘しました。

精神医療に関わる2名の医師は県精神保健福祉審議会の位置づけや議論にも触れ、審議会では現状の県の施策に明確に反対している事を述べました。

会場からは、「精神医療センターの移転の問題は病院の利用者のことを全く考慮せ

ずに進んでいる。精神医療は地域医療であることを理解すべきだ」というユーザーズアクションメンバーの意見や「県立精神医療センターは過去何度も老朽化による建替えの話が持ち上がっては消え、我々利用者は待たされている。これは精神障害者を後回しにした差別ではないか。富谷市への移転・建て替えを急ぐと県は言っているが、通えないのではまったく意味をなさない」という精神障害当事者の訴え、6月末に労災病院と日赤病院の本部に要望してきた報告、名取市の地権者による「建設候補地として名取にも用地はある」などの発言もありました。意見交換は活発に行われ、最後に呼びかけ人の小泉潤氏(元県立精神医療センター副院長・名取東口クリニック顧問)による「地域包括ケアという時代の要請に逆行する移転計画を到底認めることはできない。富谷市移転計画の白紙撤回を求めていきたい」というまとめの言葉で討論は幕を閉じました。

発言するユーザーズアクションメンバー



問題提起する原氏

